

令和6年度 学校評価計画書

重点目標に対する具体的取り組み		主担当	現状	評価の観点 達成度判断基準	備考
重点目標1 「学びに向かう力（主体的に自分の頭で考える）」の育成を目指す					
①	現代社会を生き抜くためには、あらゆる場面において「主体的に自分の頭で考える」ことが大切である。その目標達成に向け、丁寧に時間をかけて取り組む必要がある。学校の教育活動全般で、常に「自分の頭で考える」ことを生徒に求めるだけでなく教職員が率先し実践していくことも含み方針を掲げた。指示待ちの受け身の姿勢から抜け出し、さまざまな場面で自身の最適解を見出すまで、思考の過程や行動力を養うことに主眼をおき、生徒の活動を支援していく。	部署 学年会 教科会	令和3年度から重点目標として「学びに向かう力の育成」を掲げているが、まだまだ道半ばであり、教育活動のさまざまな場面で教員が指示していることが多いようである。昨年度は、大会の激励会を生徒会役員が自ら企画・運営をしており、生徒主体で実践する場面が徐々に増えつつある。	A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	
②	授業担当者は、生徒の実態を踏まえた授業の在り方や教授法について教科内研究授業や研修などで研究し、日頃から改善を図るよう心掛けなければならない。生徒が「主体的に自分の頭で考える」ことが教育活動の至る所で用意されていなければならない、授業はまさにその最たるものであることを認識し、教科内でのPDCAの実践により、教科全体の指導力の向上に繋げていく。	教科会	教科内で、授業の進め方についてよく検討した上で実践、振り返りが行われている。これにより授業担当者および参観者双方が「学びに向かう力の育成」を主題とした授業について、改善点を共有し指導力の向上に活かしている。	A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	
③	自己の在り方や生き方をテーマに、生徒は入学時から文理選択や進路研究に関するテーマについて取り組んでいる。この一連の取り組みを生徒自身が「キャリア学習」の集大成として自らの進路目標の実現に向け、どのような取り組みが求められているかを考える機会としていく。また、自身の人生設計を考える良い機会でもあるため、定期的な面談と振り返りシートを活用しながら、客観的に自分を見つめるきっかけとする。	探究担当 学年会	第1学年は文理選択、第2学年は進路研究をテーマに進めている。自分で調べることや仲間と協働すること、また発表することなど生徒が取り組むことは多岐にわたるが、概ねよく取り組んでいる。教員は目標の具現化に向けて生徒を支援するよう努めている。	A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	
④	担任による計画的な面談と面談記録の保管については、これまで同様の取り組みを継続していく。また、面談を通じて知り得た情報は必ず学年主任や関係機関に報告・連絡・相談を行い、情報の共有を図ることを徹底していく。さらに、管理職以外にも必要に応じて専門家に相談し、教員1名で対応するのではなく、チーム・組織で取り組むことを心掛ける。	学年会 担任	生徒それぞれの悩みや相談は多岐にわたるため、教員1名での対応には限界がある。できる限り複数名で対応するとともに、必要な情報は関係教員で必ず共有することを原則としている。	A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	
⑤	学習習慣の確立は、自身の進路目標を積極的に考えるきっかけとなるため、学校全体で全面的に支援していく。具体的な方策として、Classi やスタディサプリ Englishなどの動画視聴に取り組む環境を提供するほか、放課後には教職を目指す大学生による「実践型教育体験」や、東大生特別講座などを昨年度に引き続いて実施し、生徒の学習意欲と学力向上に向け組織的に対応する。	進路支援部 学年会	動画視聴および大学生による自習室支援への取り組み状況は、いずれも継続的に利用している生徒もおり、概ね好評である。東大生特別講座についても学習意欲が高まる企画として好評であり、生徒の意欲喚起に寄与している。	A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	
⑥	英語はこれまで以上に必要な教科として捉え、習得に向けた取り組みを強化していく。英検受検を教科だけでなく、学校全体で組織的に薦めていく。昨年度一部のクラスで実施していたスタディサプリ English を今年度は1年生および2年生のすべての生徒に取り組みせ、朝学習において実施している。	英語科 学年会	昨年度も英検準1級合格者が出るなど、少しずつではあるが実績につながっている。英検受検者に対しては、これまで同様合格に向けて、対策補習を行うなど支援していく体制を整える。	A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	
重点目標2 Sコースおよび特進コースの学力強化に取り組み、結果を出す					
①	昨年度より開講していた「東大生特別講座」を今年度も設定した。また、土曜講座として「学習会」を継続して実施する以外にも、希望者を対象に「勉強合宿」や「大学訪問」も予定している。これらの企画を通して、学習意欲の向上に繋げるほか、クラスとしての一体感、仲間同士の繋がりを体感し、学習に対して前向きな気持ちで臨むことができるよう支援体制を整えている。	進路支援部 学年会 教科会	「東大生特別講座」は現役東大生を講師として迎え、目標の立て方から学習方法を学び、物事の捉え方や考え方も吸収していくことをねらいとしている。今後も、学習意欲向上のための企画として運用していく方針である。	A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	
重点目標3 スクール・ミッションおよびスクール・ポリシーの具体化に向けて協議を進める。					
①	本校の教育活動を一から点検し、これまでの活動方針を再確認する良い機会と捉える。そのために新たなメンバーでチームを編成し、昨年度の取り組みを受けて、定期的に点検していく。部長・学年主任を中心に部署や学年会で共有し、全員が共通認識を持てるよう進めていく。	部署 学年会	昨年度、1年間かけて協議してきた「スクール・ミッション、スクール・ポリシー研究」の成果を今年度は具体化することを重点目標の1つとする。今年度は実際の運用状況が問われる初年となる。	A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	